

卒業記念制作 「長糸小学校旧校舎」に思いを寄せて

元6学年担任 馬場 隆

この写真は、30年前の卒業アルバムの裏表紙に使用している写真です。

旧校舎には、長糸校区の森林から選りすぐりの木材を伐採されたと聞いたことがあります。地域の宝である子どもたちのために、地域の期待を込めて造られた校舎でもありました。

旧校舎は残念なことに火災によって焼失しましたが、いつまでも、思い出多き旧校舎を残したいという思いから掲載させてもらっています。



さて、30年前卒業制作に向けて、お話を少しさせていただきます。

秋の運動会が終わり振替休日後の早朝に、木村先生（現 木村倫子教諭の父）から

「先生。学校が火事ですよ。」と言う一報を受けました。

あまりに突然の事で、学校までの記憶はまったく覚えていません。

学校へ到着した時には、地域の消防団の方々が、全身びしょ濡れになっていつまでも放水作業を続けている姿。そして、床も屋根瓦も焼け落ちて後に、むき出しになった導線だけが異様に光り輝いていました

あの朝は、小雨が降っていたと思いますが、早朝から集まった地域の住民（多くが長糸小の卒業生）の悲しそうな顔を直視できず、黙々と作業をしていると、地域の皆さんからは、思い出の詰まった学び舎を焼失してしまった悲しみよりも子どもたちのこれからの学校生活についての事を心配してくださった温かいお声かけを頂いたことを覚えています。

長糸のみなさんの温かさを、いまでも感謝しております。

学校火災は、職員室、給食室、保健室、学校購買店跡（学校で子どもたちが学用品を販売していたところ）5・6年生教室、そして給食室です。残されたのは、体育館と低学年・中学年教室、図書室でした。

10月12日出火からしばらくは、焼け残った教室を活用して授業再開となりました。5年生は、図書室。6年生はふれあい教室です。次の年からは、今の運動場の東側にプレハブ教室での学習が始まりました。

給食室も消失しておりましたので、子どもたちはしばらくの間は、お弁当持参

となりました。季節が冬になる頃には、プレハブ施設の給食室が完成しましたので、温かい給食が食べられるようになりました。

学校火災から一年が過ぎた頃、6年生の子どもたちと卒業制作について話し合い、思い出が詰まった旧校舎を模型にしたいという声があがりました。しかし、制作に当たっての指導や費用など多くの問題がありましたが、制作については、当時の学級役員さんであった川付の吉丸隆晴さんが中心となり指導を行っていただきました。制作に当たり、設計図がありませんでしたので、焼け残った校舎や昔の写真。そして、焼け残った基礎部分を子どもたちと測量し図画工作科の時間を中心に制作しました。当然時間が足りませんから、放課後に残れる子どもたちと制作になりましたが、多くの子どもたちや保護者の協力を頂き完成を見ることができました。保護者の中には、仕事帰りに手伝ってくださったり、おにぎりを握って持ってきてくださる方もいらっしゃったりと、ここでも長糸のみなさんの温かさを感じておりました。

この作品自体にも材料費だけでも結構な金額がかかるのですが、土台とアクリルケースにはさらに多額の金額がかかります。この課題に関しては、当時のPTA会長の（故）川上義喜さんが「先生。この作品は地域の宝になるから、費用の心配はしなくていいです。」と心強い応援のメッセージを受けたことも、この制作を勢いづけたことには間違いありません。

卒業式間近にようやく完成し、卒業式の会場に卒業記念制作を展示しましたが、卒業生や在校生だけでなく、卒業生よりも多い来賓の皆様が、なかなか卒業制作から離れず、卒業式の入場が遅れたことを覚えております。

あれから今年でちょうど30年です。当時の卒業生も立派な社会人となっています。

「夢中になるものがある時は、時間や苦勞など感じない！」と感慨する1990年でした。

この紙面では、紹介しきれない地域の皆様の協力と理解を頂き完成でき事に改めて感謝申し上げます。

追伸 この模型は実物の200分の1で制作していますが、模型の正門の高さに目線を落とすと当時と同じ景色となるように高さを調整して制作しました。



【現：前原小学校の馬場隆校長先生】